

※横須賀市からの発表案件はなし。

案件外質疑応答

記者

川崎競馬組合がトレーニングセンターの移転を打診という発表がありました。市長にもコメントをいただいておりますが、その中で、「これから検討する、詳しく話を聞きたい」とのことでした。一つ書かれていた、その中でのポイントは、このプロジェクト自体が市の発展に資する活用になるのかどうか、その活用について検討したいということでしたが、これについて、改めて市長のお考えと、今後、検討を進められる中で、いわゆる大まかなスケジュール感のようなものについて、どのようにお考えか、そのあたり少しお聞かせいただけますか。

市長

まず、具体的な移転計画の提案を受けていないので、スケジュール感は未定ということです。市の発展に資するということは、雇用や市内経済に波及効果があるか、あるいは定住につながるかどうか、それから地域の皆様に受け入れられる施設、例えば、公園のような形など、そのようなものができるかということを踏まえて、これから考えていければと思っています。

記者

まだ正式ではないということですが、いつ頃先方とお会いするかなど決まっていますでしょうか。

企画調整課長

はい。組合の方とは、今月中にでも早めに、地域の皆様とのこともありますので、協議を進めていきたいとお話しています。

市長

こちらに正式に来るとするのは、まだ先のことだと思います。

企画調整課長

まだ先ですが、今、日程調整をしているところです。

記者

先日、またと言っていいのか、GNF-J で火災が発生しました。その翌日、社長との面談で、市長から再発防止については求めているコメントを伺っていますが、これだけ度重なる中で、なぜここまで起きるのか。市民の安全に対してどのように要望されたのでしょうか。

市長

まさに看過できないということを強烈に申し入れました。社の存亡をかけて考え直すべきではないかと、強い口調でお伝えさせていただきました。それぞれ様々な理由は具体的にあるのですが、施設の安全対策そのものを徹底的に全て見直さなければならぬのではないかと、そのくらい市民の信頼をもう一度回復するのは大変なことではないかという話を伝えさせていただきました。

記者

重ねて、今回の事故は、前回2回の事故の後、火災の後に点検をした配電盤だと聞いています。ものの老朽化ではなく、ヒューマンエラーのような可能性があって、今調査中だと聞いているのですが、技術力や管理能力について市長のお考えはいかがですか。

市長

疑わざるを得ないと思っています。そこはきちっと話をしています。直接、市長室長が話をしていますので、市長室長からご説明します。

市長室長

今回の件は管理区域外であるということと、今ご質問ありましたとおりで、作業自体が、いわゆる保守点検管理事業者のヒューマンエラーだったということで、これはほぼ間違いないと言われています。ですので、そこも含めてということで、今回はあらゆる操業をされている中で、全ての危険を取り除く、リスクを取り除くということを、改めて、何度も改めてになってしまっていますが、再度、市長からも私からも強いお願いをさせていただいたところです。今回は申し入れ等ではなくて、要請という言葉で表現をさせていただいたところです。

市長

強い要請ですよ。看過できないですよ。これまでも様々なことがありましたから。その話はさせてもらいました。

記者

先日、投げ込みで、住友重機械工業の件ですが、これも前から、造船から撤退して、その代わりに千葉から重機の工場が移ってくるという話がありましたが、これが来月から動き出すということだったと思います。市の基幹産業だった造船、それから自動車、この2つが追浜地区から消えるということで、その感想をお聞かせください。それから米軍のSRF（米海軍艦船修理廠及び日本地区造修統括本部）にも、住友重機械工業の職人が入って、リペア、修理を担当しておられたと思うのですが、このあたりのところはどうなるのでしょうか。今、米軍側は、随分日本に艦船修理をお願いしたいということと言っているようなのですが、それに逆行するようなことになりはしないかなということをちょっと危惧しています。

市長

まず、始めの、日産さんがいなくなれる後、住友重機械工業さんには、基幹産業企業として是非、横須賀に留まっていたきたいという思いです。先端の研究所や施設がありますので、ここを通じてさらなる発展ができないかと実は望んでいたところに、今度は大型の重機の工場が来てくれるということで、生産部門ができあがるということは大変ありがたいです。少なくとも、生産部門が横須賀からいなくなるということは、横須賀が持っている潜在能力、中小企業の持っている潜在能力が消えていくということなので、これは非常にありがたい兆しだと感じています。それから、SRFに関しては、市長特命参与からお話をさせていただきます。

市長特命参与

米側からは、その件については特に情報は今のところありません。ただ記者の方がおっしゃったように、SRFがやはり住友重機械工業の方に仕事をかなり委託というか、そういう形をとっていると思いますので、今後の動きは注視していきたいと考えます。

記者

先日、記者レクチャーもありましたが、窓口サービス課での不正なやりとりの件です。とりあえずデータがある部分に関しては金額を算定して、件数を算定してというところで伺っています。一方で、その方は、それよりも以前にも勤務をされていて、もしかしたら同様なことをしていた可能性もあるということだと思います。市として警察に対して告訴告発というのは現段階でどこまで考えていらっしゃるのか教えてください。

地域支援部長

被害届や告訴については、今、引き続き警察に相談をしている段階です。今回、被害額を回収するという意味ではできましたので、それを踏まえて警察にも相談して、ご意見を伺いながら進めたいと思います。

記者

期間が分かっている部分に関しては、弁済してもらえたという理解でいいですか。

地域支援部長

我々が、証拠書類が揃っているものについては、弁済が終わったと考えています。

記者

弁済してもらったら、ちゃんちゃん、という考え方なのでしょうか。

地域支援部長

そこも含めて、警察に例えば被害届を出したらどうなのかということも含めて、相談をしている最中ですので、この後また市長とも相談しながら判断していきたいと思います。

市長

横領になるのか、背任になるのか、精査が必要なところがあると思っています。

記者

罪名含めて告訴、告発を検討していくということですね。

市長

これから検討していきます。

記者

議会の一般質問で、大村議員から質問があがっていた開国花火大会についてです。去年は（米国の）予算の関係でできなかったことを受けて、市長は9月になるとおっしゃられていました。現段階で、9月のいつ、どこでやるということをお話しいただくことは可能でしょうか。

上条副市長

いつというのはまだ正式には決まっていないので、9月に行うことは間違いはないのですが、調整でき次第、公表したいと思います。

記者

（川崎競馬の）トレセンの関係で、神奈川大学との話が切れた後、どのタイミングで、どの時期に横須賀市の方にお話があったのでしょうか。

市長

4月の段階で打診があったというのは聞いています。そして5月12日だったか、正式に話があったと聞いています。

記者

（平塚市の）落合市長のコメントを読んでいますと、かなり、いろいろ、恨み、つらみのようなことが見受けられました。

市長

向こうにはそういう思いはあると思います。

記者

ただ、こう「横須賀市に」と書いてあると、上地市長を立ててくれたのかなと思っています。

市長

平塚市長とは懇意でして、もちろん電話でもやりとりをさせていただいているし、そういう話もさせていただいています。ただ、いろいろな思いはあるでしょう。それから、（神奈川大学の）石渡理事長もいろいろな思いはあるでしょうが、その辺はお含みをいただければと思います。向こうから、是非に、という話が来ている段階なので、それでしたら、いろいろなことを考えてみましょうということだけはご理解いただければと思います。

記者

分かりました。そこが89.5ヘクタールありますが、もし開発の途中で、三浦一族の遺構が出てきた場合、どのように考えていらっしゃるのでしょうか。

市長

これはどうでしょう。実際着手してみなければ分からないと思います。

記者

出てもおかしくはないと思いますが。

市長

どうでしょう。出る可能性があるかあまり予想はしていませんが、もし出たとしたらいろいろなことを考えて、それは私なりにやらなければいけないことだと思っています。

企画調整課長

先ほどのお話しで、市長に正式に打診があった日付は5月26日です。

市長

平田副知事からの正式な打診です。

記者

先ほどの4月というのは。

企画調整課長

4月の下旬ごろにお話が来ているのは、事務方レベルで土地の利用の状況がどうなっているかといった問い合わせがございました。

記者

今のトレセンの話で、場所としては、以前に断念したナショナルトレセンの敷地とイコールという形でしょうか。

市長

はい。ワイハートです。

記者

かなり広いでしょうか。どのあたりになるのか、例えばエコミルの近く、どの辺りを指しているのか、教えていただけますでしょうか。

市長

89.5ヘクタールです。

記者

どの辺りになるのか、例えばエコミルからならば分かりやすいなど、どの辺りを指しているのか、教えていただけますでしょうか。

市長

エコミルの手前というか、どういう言い方をすればいいか。あとで写真や資料をお渡しします。

記者

2点ありまして、基地対策協議会会長としてお伺いしたいのですが、立憲民主党の古賀千景参院議員が、自衛隊に行く子どもは経済的に厳しいという話をされています。それに対し、小泉大臣が否定されておりました。横須賀は基地の官舎もあり、学校の教育の場でも、お父さん、お母さんが自衛隊に勤務しているというところもあると思います。それも含めて、市長は、この発言だけを聞かれたとき、どんな感想を持たれたか、所感をお伺いしたいと思います。

市長

不見識以外なものでもないと思っています。そういう考え方を持っている人がいるということ自体、理解ができません。私は横須賀で生まれ育っているので、学生時代から、そういう考えを持っている人がまだいるということ自体が、それも国会議員でいるということが、まったく理解ができません。

不見識以前の問題です。

記者

昨日の夜、浦賀の方で死体遺棄事件がありまして、これはまだ警察の発表ベースですけれども、捕まった被疑者が「遺体はお母さんだと思う」と。その上で手続きが自分の手には負えなかったという話をされているそうです。当然ながら行政側に何らかの対応に不手際があったということは、我々の取材では確認ができていませんが、市長は、常々、「誰も一人にさせないまち」というところを掲げておられて、そういったことが起きてしまう、隙間のところに、なかなか手が届いていないのかなというところの難しさを感じます。まだ事件が起きて時間が経っていないのですが、市長のお考えがありましたらお聞かせください。

市長

それを言われると、非常にショックで。近所ですので。まさかこんな近所でこういうことがあるなんて、これっぽっちも思わなかったし、ほとんど知っている人たちが住んでいる地域なので、報告は受けましたが、すごく残念でならないです。いわゆる引きこもり（※）がずっと続いたということをお聞きしたのですが、これからどういう状況が起きるか分かりませんが、「誰も一人にさせないまち」を訴えている自分からすると、非常に残念でならないです。様々な意味で、福祉こども部に関して、このような状況が他にもないのかということは、徹底してこれから調べていかなければいけないのではないかと考えています。

※「引きこもり」という表現は「行政や地域からの支援を求めず、お二人で生活されていた」ということを表したものです。

記者

この前の日曜日に盛り上がったワールドカップなのですが、地元横須賀の伊東純也選手のコーナーキックがつながって、同点ゴールを演出したということがありました。まずはこれについて、所感をお聞かせください。

市長

大変嬉しく思います。スポーツの街を目指している横須賀として、伊東選手の活躍は大変嬉しいです。子供たちの目標になっている選手なので、大変嬉しく思います。引き続きワールドカップで頑張ってもらいたいと思います。

記者

ありがとうございます。もう一つ、伊東選手の活躍をからめて、メッセージを頂けたらありがたいのですが。

市長

応援の横断幕を掲げています。今後またいろいろ考えさせてもらいます。今後もまた、様々な応援をしていきたいと思います。今週の日曜日に総合高校でパブリックビューイングも行う予定です。次のジュニア戦も素晴らしい試合をしてもらいたいと思います。

記者

ありがとうございます。日本選手団に応援メッセージなどいただけないでしょうか。

市長

是非頑張ってもらいたいというくらいしか言えないのですが、次のジュニア戦も素晴らしい試合をしてもらいたいと思います。頑張ってください。

以上